

寺本の「オヤクツサン」

寺本駅より線路にそつた道を南西方向に約四〇〇Mも歩くと、薬師通りといわれる道路に出ます。そこを左に折れ、南東に約三〇〇Mも進むと、八幡公民館の前をとおる道は自然と、「オヤクツサン」すなわち「薬王山法海寺」の境内に入つて行きます。

右側の古い小さな寺が、親しまれている法海寺です。法海寺は、今から一三三三年前の天智七年に、天智天皇の勅願により、寺号と頼額と、寺領二百八十町歩を賜り、日本三

大

薬師（奈良、法隆寺、三河、鳳来寺、寺本、法海寺）の一つとして創建されました。創立時は白鳳期の七堂伽藍配置（法海寺古絵図を参照して下さい）で実に壮観を極めたといわれています。

しかし、時代とともに衰頽、廢頽の変遷を経て、とくに、慶長時代に兵火にあい、現在の遺構となりました。

法灯は往古の修法が、そのまゝ、受けつがれ、八幡地区住民の吉祥祈願所として伝承されてき

ました。

ました。

境内にある楠の大木は幾百年前の往時の隆盛を物語るかのよ

えに聳えています。そして現在境内は、皆様方のご子弟の通学道路として、登下校に、また、福祉会館は、多くの方々達の文化交流の場として使用されています。

寺宝には、古式修法を伝える仏画、密教仏具など、極めて美術工芸的にも、貴重なのが保存され、其の中の数点は文化財として指定を受けております。

目途にしています。

毎々七月中旬には「虫ぼし」を行ない、一般の方々にも公開しておりますので、是非見にきて下さい。

薬師本堂も、老朽化が進み、雨もりが甚しいので、平成修復事業を進めております。

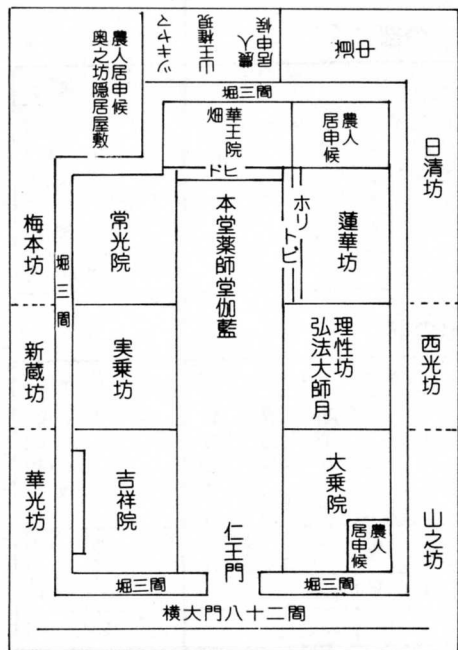
昨年の暮には、住民各家庭より、温かいご浄財を、ご喜捨賜りその基金を有効に使わせて頂くにしています。本堂に有難うございました。

名工大、東工大教授で、県文化財保護委員の内藤昌先生のご指導を得ながら、解体、再建の実施計画も進めております。

平成四年十一月月上旬の落慶を



山口剛生画伯



法海寺古絵図